

「自由ということ」 (1時間扱い)

授業者 阿保裕也

1 内容項目について

内容項目の 系統性

「主として自分自身に関すること 善悪の判断, 自律, 自由と責任」という内容項目は, 第1学年及び第2学年では, 「よいことと悪いことの区別をし, よいと思うことを進んで行うこと。」第3学年及び第4学年では, 「正しいと判断したことは, 自信をもって行うこと。」第5学年及び第6学年では, 自由を大切に, 責任のある行動をすること。」と指導の観点が示されています。中学校では, 「自主, 自律, 自由と責任」となり, 「自律の精神を重んじ, 自主的に考え, 判断し, 誠実に実行してその結果に責任をもつこと。」となります。

小学校学習指導要領
解説特別の教科道徳
編 p28, 29

学習指導要領解説特別の教科道徳編に, 「自分で自律的に判断し, 行動したことによる自己責任が伴う。」という記述があります。自由について考える際に, 「自律」「責任」という言葉は切り離して考えることができません。また, 第5学年及び第6学年の指導の要点には, 「自由と自分勝手との違いや, 自由だからこそできることやそのよさを考えたりして, 自由な考えや行動のもつ意味やその大切さを実感できるようにすることが大切である。また, 自由に伴う自己責任の大きさについては, 自分の意志で考え判断し行動しなければならない場面やその後の影響を考えることなどを通して, 多面的・多角的に理解できるようにすることが重要である。そのことが, 自らの自律的で責任のある行動についてのよさの理解を一層深めることにつながる。」とあり, 自律, 自由と責任について様々な様相があることがわかります。

本学習の目的

第5学年及び第6学年の指導の要点に書かれている内容については, 児童の実態を配慮しながら, 2年間で指導を行っていくこととなります。

本学習では, 上記にある「自由と自分勝手との違い」「自由に伴う自己責任の大きさ」「その後の影響を考えることなどを通して, 多面的・多角的に理解できるようにすること」について焦点を当てて学習を行っていきます。

教材の難しさと 解決の方策

中村・藤井 (2016)

自由だからこそできることやそのよさを考えたりして, 自由な考えや行動のもつ意味やその大切さを実感することは大切であるが, 自由や自律とは何かについて考えることも大切であると中村らは述べています。

しかし, 自由という概念については, これまでたくさんの定義がなされてきています。たくさんの捉え方ができるものであるということであり, 教師の中での自由についての概念形成が十分でない, 子供たちの自由という概念形成がはかれないと考えられます。今回授業者は, A. バーリン, J. S. ミルの自由論を参照することとしました。

中心となる概念

本学習では, 道徳的諸価値の理解をもとにについては, 「自由」に関する自分の中での理解を再構成できるようにします。また, A節度, 節制やCよりよい学校生活, 集団生活, C規則の尊重の視点からも考えられるように資料選びや授業展開を工夫する必要があります。その中で, 自由な行動や言動には, ルールを守ったり, 他者に迷惑をかけないよう配慮する責任やそのために自分を律することができたりすることが必要であることに気付くことができるようになっていきます。

資料について

本学習では, 「うばわれた自由」(日本文教出版)を使用します。本資料は, 自分の思いのままに行動することが自由であると思っているジェラル王子が, その考えが誤っていることを森の番人ガリユーに諭されるが聞き入れず, ジェラル王自身も, 国内の乱れがもとで 囚われの身となり, 改めて真の自由の大切さを知るというお話です。自由とはどういうものなのかを考えることができる資料となっています。

2 本学習のねらいと学習内容を身に付けた姿、具体的支援（課題設定、追究、パフォーマンス、メタ認知）

- ねらい** 登場人物の行動から自由とは何かを考える活動を通して、自由な言動には責任が伴うことや他の人に迷惑をかけないように自分を律することが大切であるということに気づき、責任ある行動をとろうとする判断力を育てる。
- 鍛える
見方・考え方** 自由な行動や言動には、ルールを守ったり、他者に迷惑をかけないように配慮する責任やそのために自分を律することができたりすることが必要であることに気付くこと。

「子供が学びをつくる」ための具体的支援

子供が学びをつくる



メタ認知を促す 手立て

開始期： 自分にとっての自由とはどういうものか明確にするために、事前にとったアンケートを提示し、自分の自由について意識できるようにします。また、同時に本時の道徳的価値について触れることができるようにします。

展開期： 他の児童の意見と自分の考えを比較できるよう、板書の構造化を行います。自分の考えを見つめ直したり、広げたりできるようにします。

まとめ期： 事前の自由に関するアンケートと今の自分の考えを比較する場の設定をします。そうすることで、自由という概念を再構成することができますようにします。

資料, 他の児童 と教師との対話 による追究

資料との適切な出会いを演出することで、追究したい気持ちを高めたり、自分事として考えたりできるような支援を行います。自由に関するアンケートの結果を提示したりすることで、資料への関心を高める工夫をします。

ネームプレートで自分の考えを視覚化しながら、その理由を話し合い、「自分にとっての本当の自由」について児童同士で対話する場を設定します。

パフネーム プレート掲示 による可視化

自分の考えを板書に位置づけ、立場を明確にします。そうすることで、自分と他の児童との考えを比較しながら課題追究できると考えます。本時では、「自分にとっての本当の自由」とは何かを考えて、黒板に位置付けます。そうすることで、自分にとっての自由とはどういうものなのかを整理し、選んだ理由を考える必要感が生まれます。理由を交流することで、自分の生活と結びつけて考えることができると考えます。

本単元の 学習内容を 身に付けた姿

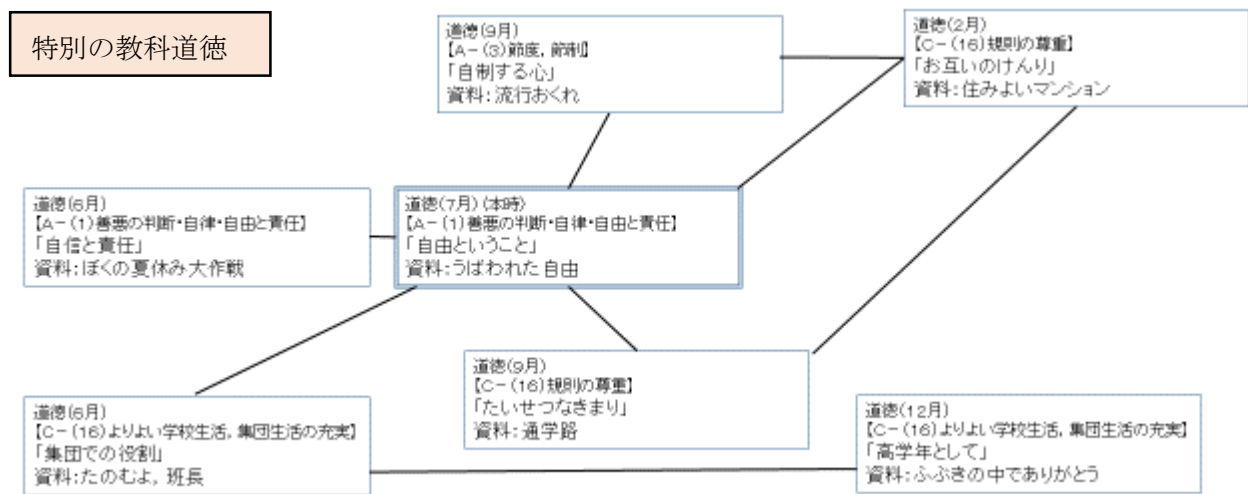
自分の「自由」と言葉の概念を見出し、再構成することができる。

「自由」とは自分のしたいことを自分勝手にすることではないということ(A節度, 節制), 自由を履き違えると集団に迷惑がかかる(Cよりよい学校生活, 集団生活), 規則を守るという責任を果たすことによって自由が保障されること(C規則の尊重)に気付く。

これまでの自分の生活を振り返り, 自らを律して, 自分の言動に責任をもって行動をとろうとすることのよさを感じることができる。

4 児童の実態と他の教育活動とのつながり

他教科，領域			
家庭科（5月，9月） 調理実習	体育（6月） キャッチバレー	体育（9月） バスケットボール	体育（1月） タグラグビー
特別活動	【学級活動】 清掃給食などの当番活動		
	【児童会活動】 前期・後期委員会		
	【行事】 5月 桐の子スポーツ祭	10月 桐の子発表会	



日常生活
休み時間での過ごし方

児童34名を対象に自由に関するアンケートを行いました。アンケートの質問内容は、「①自由とはどういうものだと思いますか。」「②自由じゃないと思う時はどんな時ですか。」の2つです。アンケートを行った際には、「難しい」「よくわからない」といった反応が多くあり、自由という概念をうまく文章化することが難しい様子でした。

①の結果から「よくわからない」という児童や「自分がやりたいようにできる」「好き勝手できる」など自由についての考えをうまくまとめられない児童や、自由そのものの意味について書いている児童が多くいました。「制限がかかった中でできること」や「自分勝手とはちがう」など自由であるためには条件や制限があるということに触れている児童も数名いました。

②の結果からは、「あれこれ誰から指示されるとき」「やりたいことができないとき」という意見が多くありました。また、「きまりがあるとき」という意見もあり、きまりにしばられていることに不自由さを感じる児童もいました。

自由な行動を行う際には、きまりを守り、他者に迷惑をかけないよう責任をもって行動しなければいけないこと、自らの行動を律しなければいけないことに気付くことができるようにしていきます。

5 本時案

本時のねらい

登場人物の行動から自由とは何かを考える活動を通して、自由な言動には責任が伴うことや他の人に迷惑をかけないように自分を律することが大切であるということに気付き、責任ある行動をとろうとする判断力を育てる。

学習活動（○）と子供の姿

教師の支援（☆, 課題, 選択, 17, 18）と評価（◇）

- 自由についての事前アンケートの結果を知る。

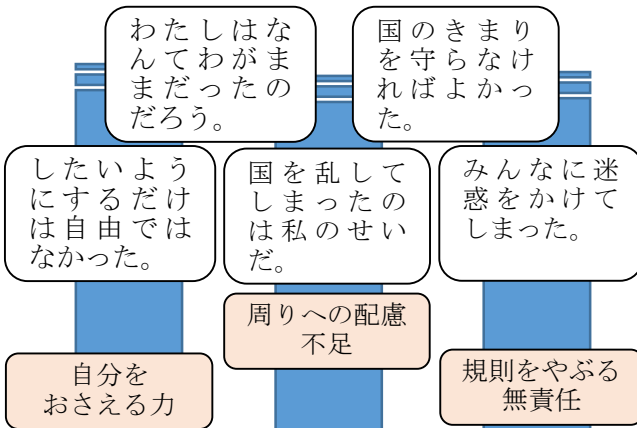
課題 道徳的な価値に触れられるよう、事前にとったアンケートを提示する。

課題 本当の自由とはどういうことだろう？

- 資料の題名を聞き、自由が奪われた経験、自由が奪われるということの意味等について考える。
- 資料の中に自由が奪われた人がいることを知り、その人物が誰かを探しながら読み聞かせを聞く。
- 「**ジュラル王は、なみだを流しながらどんなことに気付いたのでしょうか。**」

選択 多面的・多角的な考えを獲得できるよう、様々な視点から考えられる発問を行う。

17 他の児童の意見と自分の考えを比較したり、出てきた発言を整理したりできるよう、板書の構造化を行う。



17 自分の考えを整理し、考えが近い方にネームプレートを貼り自分の立場を明確にする。

◇ 他者の意見に触れることで、自由について多面的・多角的に捉えることができる。

◇ 学習した内容を踏まえ、自分の考える自由について見直すことができる。

18 自由という概念を再構成することができるよう事前にとっていた自由に関するアンケートと今の自分の考えを比較する場の設定をする。

- 「自分にとっての本当の自由とはどういうことだろう。」

☆ 本時の学びを焦点化できるよう、視点を明確にして振り返りを行う。

- 授業の振り返りをする。